

今号の内容

- 木綿部会での活動を生かして
- 難波田氏の由来
- 夏休み古民家むかし体験
- 飯能戦争と難波田氏
- 秋のイベント予定

木綿部会での活動を生かして

市民学芸員 岡田 えいこ 栄子



小学校での出前授業の様子

難波田城資料館には、市民学芸員の他にもいくつかの団体が活動しており、その中の一つに、資料館友の会があります。私はこれまで10年間、友の会の中の木綿部会で活動してきました。

木綿部会は、昭和63年(1988)に考古館(資料館の前身)の事業「ワタの栽培から機織りまで」の参加者で結成されました。活動当初には、現在は長屋門展示室に展示されている大正時代の機織り機と、市内に残されていた縞帳(布の模様の見本)を使い、縞の布を復元する活動を行いました。

そして平成12年(2000)、資料館の開設に合わせ、旧大澤家住宅での活動を開始しました。

現在も綿を育て、糸を紡ぎ、草木染めで糸を染め、布を織る、という一連の作業を行っています。一つ一つの作業がとても時間のかかるものですが、機織

り機で織りを始めるまでにも、糸をセットする様々な工程(仮篋、綜統など)があります。その準備が終わると、部員全員で順番に織っていきます。縦糸の縞と自分なりの横糸の組み合わせでそれぞれの模様ができます。これがなかなか予測できないのが楽しみでもあります。

こういった活動の他に、資料館と協力し、ちょっとした体験や公園まつりでの「はたおり体験」、2年に一度の「はたおり教室」、小学校への糸紡ぎ体験の出前授業など様々なイベントも行っています。そして、これらの活動は、先人の残されたものを受け継ぎつつ、各自が見聞きした新しいものをどう取り入れていくか常に部員で話し合った上で続けています。

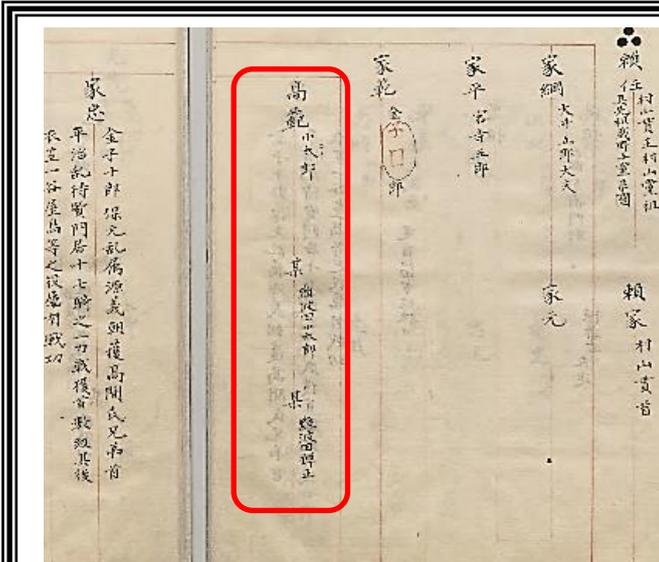
今年度から新たに市民学芸員にもなりました。木綿部会での経験と新しく体験するものを合わせ、私なりの活動ができればと思っています。

市民学芸員のページ *このページは市民学芸員が原稿を執筆、編集しました。

難波田城 ちよっと拝見 みどころ紹介
難波田氏の由来

図録『難波田氏とその時代』より

今回は図録『難波田氏とその時代』から難波田氏の由来を見ていきます。南北朝時代以降にまとめられた村山党や金子氏の系図では金子小太郎高範を難波田氏の祖としています。その高範は史料には奥州合戦(1189)で登場し、承久の乱(1221)で討死した、とあります。奥州合戦とは、初代将軍源頼朝が奥州藤原氏を滅ぼした戦いです。承久の乱は、鎌倉幕府の全国支配を確立したとされる戦乱のことです。建保七年(1219)三代将軍源実朝が暗殺され、頼朝の男系子孫が絶えました。これを機と見た後鳥羽上皇は、承久三年(1221)兵を挙げます。しかし幕府側は優位に戦いを進め、上皇側の京都の防衛線であった宇治川での合戦も多数の犠牲者を出しながら勝利します。この宇治川の合戦の幕府側の戦死者一覧に、金子小太郎高範が載っています。この戦功により子孫に難波田の地が与えられたのが、難波田氏の起源では、と考えられています。ただし、鎌倉時代の文献には「難波田」を名乗る武士は一切登場しません。また系図も高範の子孫は某とされ名前すらありません。そのため後世に難波田氏の由来を高範に求めた結果、系図が作成された可能性もあります。



『続群書類従』(国立公文書館蔵)の難波田氏掲載箇所

【田中 聰行】

おもしろ・なつかし体験⑦
夏休み
古民家むかし体験

このコーナーは、難波田城公園での体験学習やイベントの紹介・報告・参加者の感想などを取り上げます。

今年の「夏休み古民家宿泊体験」は、感染予防を考慮し日程を短縮して8月7日に「夏休み古民家むかし体験」として実施されました。富士見市内から6人の小学生が参加しました。

体験では旧鈴木家長屋門での竹コップと箸作り、旧金子家住宅の座敷では、和とじノートを作りました。自分達で作った竹のブンブンゴマや割りばし鉄砲でも遊びました。園内でとれた梅から作られた梅ジュースを自分の竹コップで飲んだりもしました。

そして日も沈み薄暗くなると、夜の公園探検が始まります。2人一組となって、市民学芸員が企画・準備した「きもだめし」にチャレンジです。市民学芸員の案内で城跡ゾーンから古民家ゾーンへと一巡

り。真夏の夜のひと時の、ちよっと怖い体験です。体験後の感想には「怖かったけども、おもしろいこともあって、勇気を振り絞ってがんばりました」というものや「くる時は、だれがいるんだろう、仲良くできるかなと心配とかもしていたけど、来てしまったら楽しくて、けっこう早く時間が進みました」というものもありました。

午後から夜にかけての日帰り体験でしたが、楽しい夏休みの思い出づくりとなったようです。

来年は、例年通りの「夏休み古民家宿泊体験」ができることを願っています。(古澤 立巳)



工作の時間は暑さも忘れて集中!

人の創ったもの★人の使ったもの

このコーナーでは、当館所蔵の資料や富士見市ゆかりの資料を紹介し、今ではあまり使われなくなったものからわたしたちの身近な歴史をひもといてみたいと思います。

飯能戦争と難波田氏

慶応4年(1868)4月11日、江戸城は無血開城されました。しかし、世情は安定せず、旧幕府軍と新政府軍は各地で戦闘を繰り返します。その一つが、飯能戦争です。新政府軍側で戦った岡山藩兵は、飯能に向かう途中、南畑の賊徒討伐に立ち寄りました。

振武軍と飯能戦争

江戸開城前、旧幕臣等が渋沢成一郎(栄一の従兄)を頭取、天野八郎を副頭取とする彰義隊を結成していました。しかし、渋沢と天野は方針を巡り対立。上野を離れた渋沢らは、5月1日ころ田無(西東京市)に移り、振武軍と称しました。その後、上野戦争に敗れた彰義隊の生き残りが合流し、18日に飯能の能仁寺ほか5か寺に宿陣しました。新政府側は、岡山・大村・佐土原・福岡・久留米の5藩兵が江戸を出立、22日に扇町屋(入間市)に集結しました。

23日未明、扇町屋の対岸にある笹井村(狭山市)で佐土原藩兵と振武軍等との間で戦端が開かれました。新政府軍は夜明けを待って進軍を始め、飯能の町に入りました。宿陣していた寺の周辺が主な戦場でしたが、町中でも戦闘が行われ、200軒以上の民家が焼失しました。午前中に町中での戦闘は終わり、振武軍等は敗走しました。成一郎は生き延び、その後も箱館戦争まで戦い続けました。

南畑に現れた難波田一族と岡山藩兵

慶応4年(1868)4月10日夜、旗本難波田氏の一

族・千代虎らが江戸を離れ、下南畑に現れました。千代虎は先祖の名である難波田弾正を名乗りました。これを討ち取ったのが岡山藩兵です。岡山藩に残された記録から、その時の様子を見てみます。

青梅・扇町谷(屋)付近に賊徒が集結しているとして、5月20日に岡山藩に川越への出兵が命じられました。同日午後4時に出発し、戸田の渡し付近を警備していた部隊と合流、白子宿(和光市)で一泊しました。翌日、川越に向かう途中、南畑村で賊徒が金銭や食料を強要しているという知らせを受け、一小隊を迂回させ派遣しました。賊徒の長は難波田弾正という者で、中心となる4人は斬首、その他9人は小銃で銃殺、2、3人は取り逃がしました。この部隊も夜には川越で本隊と合流しました。

興禅寺には千代虎らの菩提を弔うため地蔵が造立され、その台石には顛末や戒名が刻まれています。

- 天正儀誅居士 天真是誅居士 天吹透誅信士
- 天応大誅信士 天無蔵誅禅定門 天玄道誅禅定門
- 天悟了誅禅定門 天徑得誅禅定門 天安清誅禅定門
- 天誠自誅禅定門 天光普誅禅定門 天指懸誅禅定門
- 天如何誅禅定門

「天正儀誅居士」は千代虎、「天真是誅居士」はその弟の英次郎のことです。岡山藩の記録とあわせて考えると、「居士」と「信士」の位号をつけられた者が斬首された4人、「禅定門」の位号をつけられた者が銃殺された9人と考えられます。(山野 健一)



能仁寺境内の振武軍碑 (昭和12年5月23日建立)

武州飯能表之戦状
 五月中旬武州青梅扇町谷辺迄賊徒屯集之趣二付、同廿日川越表え出張被仰付候二付、即日昼四字本営より繰出し、去ル十四日戸田川え出張之兵と合隊任、同夜白子え一泊、同廿一日行軍途中にて承り候得ば、難波同(田)村にて賊徒金穀強談之趣相聞候二付、迂路一小隊指向為相糺候処、賊長難波田弾正と申者に、頭分四人召捕致斬首、余之賊徒九人は小銃にて擄取、其余両三人は逃散申候、同夜全隊川越表にて併合(後略)

岡山藩記 二 (国立公文書館内閣文庫所蔵)



興禅寺地蔵像 (明治2年造立)

＊ ＊秋のイベント予定＊ ＊

掲載したイベントは、新型コロナウイルス感染症の影響で中止・変更となる場合があります。

●ふるさと体験「お月見だんご作り」

とき／9月23日(祝) 午前10時～正午
 定員／8人(申込み順) 参加費／500円(材料代)
 会場／旧金子家住宅 協力／市民学芸員ほか
 持ち物／エプロン、三角巾、持ち帰り用の容器
 申込／9月1日(水)～9月12日(日)に電話で

●富士見市児童・生徒「社会科展」

市内小中学生による、夏休みの自由研究の作品を展示します。各校から選ばれた約80作品です。
 会期／9月25日(土)～10月3日(日)
 会場／特別展示室 主催／水子貝塚・難波田城資料館

●ふるさと探訪

鎌倉古道をたどり水子貝塚へ

とき／10月2日(土) 午前9時～正午 ※小雨決行
 集合／みずほ台駅東口
 主な見学地／並木地蔵、鎌倉道、水宮神社、大應寺
 定員／20人(申込み順) 持ち物／飲み物、雨具
 参加費／500円(保険料等、当日集金)
 申込／9月30日(木)までに電話で
 主催／資料館友の会ふるさと探訪部会・難波田城資料館

●令和3年秋季企画展 新収蔵資料展

近年収集した資料から学びに関する資料を展示します。
 会期／10月16日(土)～1月10日(祝)
 主な展示品／昔の教科書、食品サンプル、お囃子の譜面
 会場／特別展示室 ※入場無料

●拓本体験教室



作品例

石碑の文字を和紙に写しとる「拓本」を体験します。作品はカレンダーに仕上げ、持ち帰れます。
 とき／10月9日(土) 午前10時30分～午後3時
 会場／講座室
 定員／6人(申込み順)
 参加費／600円(材料代)
 持ち物／昼食
 申込／8月25日より直接または電話で
 指導／資料館友の会拓本部会

●さつまいも掘り

とき／10月17日(日)午前10時～、午前11時～
 (小雨決行。悪天候の場合翌週に延期)
 定員／各8組(申込み順) 集合場所／旧金子家住宅前
 参加費／1組1,000円
 持ち物／持ち帰り用の袋、シャベル
 申込／10月2日(土) 午前9時から電話で
 主催／難波田城公園活用推進協議会

●古民家コンサート

とき／10月24日(日) 午前11時～11時30分
 会場／旧大澤家住宅
 出演／Facile (サクソフーン四重奏)
 定員／30人(申込み順) 参加費／無料
 申込／10月2日(土)より電話で
 主催／難波田城公園活用推進協議会

●古民家寄席

とき／10月24日(日) 午後1時30分～3時
 会場／旧大澤家住宅 出演／山遊亭くま八 ほか
 定員／30人(申込み順) 参加費／無料
 申込／10月2日(土)より電話で
 主催／難波田城公園活用推進協議会

●麦づくり体験(全6回)

公園内の田畑の一部を使って麦を育てます。育てた麦は小麦粉や麦茶用にして持ち帰れます。
 とき／11月13日、令和4年1月22日、3月12日、6月11日、6月26日、7月24日
 ※天候や麦の生育状況により日程変更の場合あり
 定員／6組(1組4人以内、申込み順)
 対象／市内在住・在学・在勤者を含む家族又は友人
 参加費／1組500円(通信費等)
 協力／難波田城いきものがかり
 申込／10月1日(金)から電話で

●ちよっ蔵市(難波田城公園活用推進協議会主催)

9月26日(日)ぼたもち
 10月17日(日)ふかしいも
 11月はお休み
 11時より販売。売り切れ次第終了

田舎まんじゅう販売
 第1.3日曜日 10:30～

※他にも様々なイベントがあります。詳細は、広報ふじみ、公式サイトなどでお確かめください。



富士見市立難波田城資料館
 〒354-0004 埼玉県富士見市下南畑 568-1

TEL. 049-253-4664 Fax. 049-253-4665



https://www.city.fujimi.saitama.jp/madoguchi_shisetsu/02shisetsu/shiryokan/nanbatajo/index.html

◆休館日／月曜日(祝日を除く)、祝日の翌日(土・日・祝日を除く)、年末年始 開館時間／午前9時～午後5時
 ◇公園休園日／なし 開園時間／午前9時～午後6時(4月～9月) 午前9時～午後5時(10月～3月)

資料館公式サイト